

平成 16 年 9 月 21 日
社団法人 日本自閉症協会

三角頭蓋の手術についての公式見解

沖縄県立那覇病院において行われている三角頭蓋の手術について、日本自閉症協会にご質問が寄せられております。この件についての公式な見解を掲載いたします。

現時点で、軽度の三角頭蓋と自閉症との関連について、脳神経外科学、児童青年精神医学、小児科学などの学会で広く認められているとは言えません。手術の適応も確定しておらず、自閉症に対する確立した治療方法ではなく、研究段階にあるものです。この治療については、手術を行う専門医の十分な説明のみならず、小児神経学、児童青年精神医学、小児科学などの専門家によるセカンドオピニオンが必要です。

1) 頭蓋骨早期癒合症（狭頭症）と三角頭蓋について

頭蓋骨は、いくつかの扁平な骨が集まって出来ています。成人の場合、骨と骨との結合部は縫い目のようになっており、縫合と呼ばれます。幼少期の頭蓋骨は縫合が広い隙間となっており、脳の増大に伴って頭蓋も拡大するようになっていきます。加齢とともに縫合は固く結合し、成人期に完全に閉塞します。頭蓋骨早期癒合症（狭頭症）は、縫合が異常に早い時期に閉鎖する事により、頭蓋が拡大できにくくなり変形する先天異常です。どの部分の縫合がどれくらい早期に癒合するかによって、頭蓋変形の度合いが変わります。三角頭蓋もこの一種であり、前頭骨の縫合が早期に癒合し、結果的に前頭部が尖った形になります。その程度は重度から軽度のものまでさまざまです。

重度の頭蓋骨早期癒合症の場合、頭蓋の拡大が制限されて脳の成長が阻害され、四肢の運動麻痺や知的障害などの神経症状が生じる可能性があります。さらに、美容的な問題が加わり、頭蓋骨を拡大・形成するための手術が必要となる場合があります。日本でも、重度の頭蓋骨早期癒合症（三角頭蓋を含め）に対しては、小児病院や大学病院などを中心に専門医が手術を行っており、日本小児神経外科学会でも注目している疾患です。

2) 三角頭蓋と自閉症の関連について

三角頭蓋と自閉症の関連については、いくつかの疑問点があります。

三角頭蓋であっても自閉症や他の神経症状がない子どもさんが多数存在します。

三角頭蓋と自閉症や神経症状の両方がある場合、三角頭蓋が神経症状の原因なのか、遺伝的な要因を含め偶然合併したものなのかわかっていません。

自閉症児のうち、三角頭蓋のある子どもは少数派です。多数派である三角頭蓋のない自閉症児には別の生物学的原因があると推定されます。

現時点で、三角頭蓋と自閉症との関連について、脳神経外科学、児童青年精神医学、小児科学などの学会で認められているとは言えません。さらに、重度の頭蓋骨早期癒合症と違って、軽度の三角頭蓋を手術することについては、小児脳神経外科医の間に広く認められているとは言い難い状況であり、未だ研究段階であると云えます。

3) 県立那覇病院での三角頭蓋手術について

今回の手術の対象は明確な診断基準に基づいて診断された自閉症児というわけではなく、何らかの神経症状、知的障害や行動上の問題をもった子ども達です。その中に慣用的に「自閉的」とされている症状をもつ子どもたちが含まれ、それらの症状のある程度の改善が認められたと報告されています。手術による長期間の効果については、非手術症例との比較が十分なされておらず、現時点では科学的エビデンスが不十分です。沖縄県立那覇病院の嶺功一院長も「当院脳神経外科で行われている三角頭蓋の手術は自閉症の治療ではない。」と言明されております。(平成12年、日本自閉症協会からのお尋ねに対する回答。いとしご65号に掲載)

4) 手術のリスクについて

手術は全身麻酔で行われます。習熟した小児脳神経外科医にとって、技術的に困難な手術ではないかもしれませんが、出血や感染などを含め合併症や生命の危険はありえます。

本人に代わって保護者が医療行為を承諾する場合、より一層明確な根拠と倫理規定が求められます。自閉症の子どもが、少しでもよくなる方法があれば試してみたいという保護者の方々のお気持ちはよくわかりますが、明確な科学的な根拠が得られるまでは、研究段階にあるものであることを充分認識する必要があります。個人個人の状況に応じて、複数の専門家(小児脳神経外科、小児神経科、児童精神科など)の意見が必要であり、その上での慎重な対応が必要です。

5) 今後の取り組み

日本自閉症協会といたしましても、一日も早く自閉症の原因と治療法が見いだされるように努力しております。三角頭蓋の手術は、一つの新しい仮説を提供したという点は評価できます。今後、より正確な手術適応が検討されるべきであり、そのためには的確な方法と明確な倫理観に基づいた研究が行われるべきであると考えられます。私どもも日本児童青年精神医学会、日本小児神経学会、日本小児神経外科学会などの学術団体と協力し、頭蓋骨早期癒合症などの先天奇形と自閉症の正確な疫学調査や、脳の形態と働きの関連についての研究に協力する必要があると考えております。

以上